



元々、スノク(エソマツ)ニタイ(森)。私が暮らしていた二風谷も、ニタイが語源とも言われます。私は、森こそがアイヌ文化を産み育てた母だと信じてます。

そんな私の「イチ押しニタイ」は、なんといつても阿寒湖を取り囲む前田二歩園の森。雄阿寒岳に連なる広大な森林には、アットウシ(樹皮衣)の原料である貴重なオヒヨウの木、薬や香辛料が採れるキハタの木が驚くほどあちこちに生えているの。



本田優子
(札幌大学教授)

森はアイヌ語ではニタイと言つた。たとえば道東の春国岱は

今月のテーマ
阿寒の森

Vol.79

ゆうこみゆき

なるほどアイヌ文化エッセイ

ソノコ de ソノコ



アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

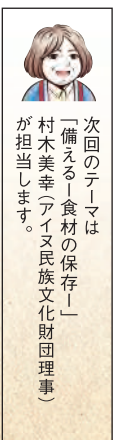


故・前田光子さん

イラスト/ 莊田悠人

カツラやミスナラの巨木は見る者を圧倒し、まるで「太古の森」とも呼びたくなるような濃密な気配が漂っている。でも実はこの素晴らしい森は「復元の森」なのです。

創設者の前田正名氏(一八五〇〜一九二二)は明治の殖産興業政策の中心人物の一人で、全国を行脚し、釧路にも製紙会社を設立したの。つまり元は木を伐る側の人だった。でもやがて、「阿寒の自然はスイスに勝るとも劣らぬ。伐る山ではなく見る山だ」と言つて森の復元と保全を目指し、その遺志を受け継いだのが、息子・正次氏(一八八七〜一九五七)と妻の



次回のテーマは「備えるー食材の保存ー」村木美幸(アイヌ民族文化財団理事)が担当します。

光子さん(一九二二〜一九八三)でした。

光子さんは元々カラジエンヌ。でも正次さんを亡くした後、一人で阿寒の森を受け継ぎ定住したの。いまの阿寒湖アイヌコタンの敷地も光子さんが無償で貸与したの。光子さんは阿寒のアイヌの人たちから「ハボ(おかあさん)」と呼ばれ慕われていたとのこと。今でも阿寒湖温泉街の土地は前田二歩園が所有しているの。温泉が賑わつて収益が出たらそれが還元されるの。私たちが温泉に入れば入っただけ森が育つ…ステキでしょ。

光子さんは永久に森が保全されるための財団設立に全力を注ぎ、それを見届けた十四日後、一九八三年四月十八日に亡くなったの。お命日を知った時、私は雷に打たれたような衝撃を受けました。なぜならその日こそ、私が二風谷に移り住み新たな一歩を踏み出した日だったので。以来私にとって「森」は、光子さんという先生から課された「人生の宿題」です。



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。